

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

施設名	永山駅前こどもの家
施設所在地	多摩市永山1-4 グリナード永山4階
法人名	株式会社ライフケアサービス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽活動

<テーマの設定理由>

日頃から音楽に合わせて身体を動かし、いきいきとした表情を見せている子どもたちに本格的な音楽体験をと思い、外部講師を依頼 運動能力の向上を図る 音楽性を育み、リズム感や音感・聴く力を養い、集中力や思考力、自発性を育む リズムに乗せて言葉を学ぶことで、言葉の発達も促していく

2. 活動スケジュール

月2回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

外部講師に月2回レッスン依頼する。
鍵盤数の多いキーボードを用意する。室内にマットを敷き、転倒対策をする。2才児は広い空間で実施希望のため、ホールを借りる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者も共に楽しみ経験することにより共感し、子どもたちの表情・表現を間近で感じることができるようにする。講師と相談し内容を検討する。探究活動の様子は動画及び写真で記録する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

開始直後は、人見知りなどで保育者から離れられない子が多かった（0才高月齢・1才児）が、保育者が積極的に参加し、楽しむことで子どもたちの緊張がほぐれていった。回を重ねるごとに講師にも慣れ、人見知りする子が減ってきた。歌を覚えはじめると、講師と一緒に歌ったり、体を動かしたり、自発的参加するようになった。音の「おそい」「はやい」「たかい」「ひくい」を感じながら、体で表現することを楽しんでいた。保育者も一緒に参加し、「よく聞いて?」「どんな音?」と尋ねると、2才児は、「ぞうさんのおと」「ありさんのおと」など、いきものに例えていた。「どっしんどっしん」「くねくね」「ぐるぐる」などオノマトペを用いたレッスンでは、1才児も、しこを踏むように片足を大きくあげたり、その場で回転したり、体を大きく使いダイナミックに表現していた。マラカスの音を「シャカシャカ」、シフォンの布を「ふわふわ」と表現する子もいた。ピアノが止まったら動きも止める。ということを理解し、歩く→止まる 音の変化に合わせて、歩く→しゃがむ 歩く→飛ぶ など音をよく聞き、体を動かすことも経験していくうちに指示がなくても自発的に出来るようになった。レッスンが終わると、「次はいつやる?」と聞いたり、子ども同士で「たのしかったね」と微笑む姿があった。



0才



1才



2才

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

2才児クラスでは、日頃から声の大きさをいきものに例えていたが、大きな音→ぞうさんの音 小さな音→ありさんの音と表現したことに驚いた。始まった当初は、緊張して動きも声も小さく、表情も固かったが、回を重ねるごとに講師と打ち解け、リラックスした様子で行えた。約1年を通して、音楽に触れてきたことでオノマトペと含む言語表現が増えたように感じる。